

各学校での目標（重点は○数字）・具体策	評価	取組状況・成果・課題 成果は○課題は▲を文頭にして記入	改善策	学校関係者評価・第三者評価でいただいた意見等
I 学校教育目標や学校経営の方針の設定状況		○後期も、子どもたちの生きる力の育成につながる体験的な学習活動が充実していた。		
① 学校経営の充実と創意と活力のある学校づくり ・学校経営の充実（マネジメント体制の確立） ・生きる力を育む特色ある教育課程の編成 ・活力ある教育活動の実施	A			
② 教職員の能力・資質の向上 ・校内組織としての校内研修体制の構築と研修内容の改善 ・教職員評価制度を活かした能力・資質や勤労意欲の向上 ・OJTを活用した同僚性をもった人材の育成	A	○町ハッピースローププランや、中堅教諭等資質向上研修などに係る研究授業に若手職員が参加できるようにしたのは、よい研修の機会になっていた。 ○中堅教諭等資質向上研修の研修や研究授業の実施、振り返り等を柔軟に対応していただけてありがたかった。 ○校内研修を詰め込みすぎているように思う。	・一つ一つを充実させるためにも、分散して実施できるようにする。	
II 保護者や地域との連携に努める		○学校ホームページでは、いつも子どもたちの生き生きした姿を発信できている。		
① HPや学校だより等を通して、保護者や地域に向け、きめ細かに情報提供し開かれた学校づくりに努める。 ・保護者・地域との連携・協働体制の構築 ・保護者・地域への情報発信と学校公開 ・「ふれあい学習」の推進	B	○学力アップ週間のお知らせや保健だよりなど、各校務分掌から出される通知も、家庭との連携につながっていると感じる。 ○保護者・地域との連携が強い印象はある。 ○ホームページできめ細かな情報提供がなされているが、閲覧状況が少ない気がする。		・仕事をしている平日は閲覧が難しいが、積極的に学校から発信していく。 ・学校だよりや特別なお知らせを掲載したとき、メール等で通知すれば閲覧数が増えるのではないかと。「ホームページ更新しました」のメール通知を試行する。 ・HPをどう見るかは各家庭で異なる。ショートカットですぐに見られるようにするなど、閲覧方法を示せばよいだろう。 ・保護者は子どもの顔が見たいだろうが、個人情報保護の観点があるので写真はアップにはしていない。しかし東小は他校に比べ、より子どもの姿がたくさん見られる。 ・パスワードをかけた、保護者だけが見られる方法を取り入れるのもよいのではないかと。
② 信頼され・地域とともにある学校づくり ・「家庭学習の約束」の啓発とアウトメディアデーの推進 ・地域素材・地域人材の積極的活用 ・地域学校協働活動の展開	A	○忙しい中、足を運んでくださるボランティアさんのおかげで助かっている。 ○地域コーディネーターが見つないでくれた地域人材が、新たに学校ボランティアとして登録していただけた。ふれあいタイムの見守りなど、ボランティアさんも子どもたちとの交流を喜んでくださり、学校と地域とのよい関係づくりができていたように感じる。 ○メディアの使用時間が、増加傾向にある。全体的に使用時間が長いと、極端に長い児童もいる。健康への影響やルール作りについての呼びかけを自分事として捉えられるような指導が必要である。 ○地域ボランティアとの交流が慣れてきて、感謝する気持ちが減っているように思う。	・メディアの時間を減らすために、上手な使い方の指導をする。家庭との協力体制も整え、啓発活動をしていく。 ・学校からの啓発・指導のみで改善できるものではないので、新たな解決策を検討する必要がある。 ・本人の使用時間に合わせた目標を自分で立てさせ、スモールステップで減らせるようにする。学力アップ週間にとどまらず、生活セルフチェックの機会を活用して日常的に目標を決めて自分の使い方を振り返る場を作る。 ・授業参観でメディアに関する授業を行う。発達段階に合わせてメディアについて考える時間（学活や道徳）を設ける。（発達段階に合わせた動画があるので、それを視聴して話し合う） ・毎月1の付く日（1, 11, 21）をメディアの時間を1時間減らそうデーにする。次の日に時間を減らすことができたか確認する。（自己申告） ・ボランティアさんを活かす工夫をする。ありがたさを実感できる取組をする。 ・お世話に対する感謝の気持ちをもつ、表す指導を日常的に行う。行事など地域ボランティアさんがいらっしゃる時は、事前に具体的に指導する。（具体的な態度の在り方の指導） ・新しい取組など、必要に応じて「依頼シート」を作成する。毎年同じ内容の行事等については電話や対面で直接打合せをする。	・メディアは子どもたちにとっても必要なものになっていて、0にできるものではない。使い方を考えていく必要がある。 ・子どもが申告したときに渡すなどのルールを決めている家庭もある。 ・最近はテレビを見ない。テレビでYouTubeを見るなど、テレビの使い方や視聴方法も変化してきている。 ・子どものスマホの保有率は高いのだろうか。小さい子が年上の子が聞くような曲を知っていた。メディアがあるからではないかと。 ・親がいない時間にメディアに触れている子どもはどうなってしまうのだろうか。心配である。 →メディアが使える状況にある子は多い。上手に付き合う方法を考えていかなければならない。 ・子どもに「止めなさい」と言いながら、親がスマホに触っているのはよくない。親子で共にメディアについて考えることも必要である。 ・減らそうdayは親も取り組める。0は無理だが、「1時間減らそう」なら家庭でのアウトメディアを推進できる。そのお知らせもメールで通知すれば、親子で取り組む家庭が増えるのではないかと。 ・地域ボランティアさんの最近の思いとして「PTAも是非一緒に」というものがある。学校としても考えていきたい。 ・サマースクールは、他校から「すごいいい！」とうらやましがられる。あの活動に「保護者も一緒に参加しませんか」と呼びかけるのはよいのではないかと。周知を早めにして、仕事の都合をつけやすくするようにする。

		<p>○打合せの重要さを感じた。地域ボランティアの方が丁寧に指導してくれるのはありがたいので、児童自身に考えさせたい場面が盛り込めるようにする。</p>	<p>・どのような支援（何を・どこまで）をしてほしいか確認できる「依頼シート」のようなものを作成し、それを係に渡す。またはそれを基に打合せをする。</p>	
<p>③ ハッピースローププランの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こ・小・中連携による協力体制の充実 ・小1プロブレム・中1ギャップの解消 	<p>A</p>	<p>○こ・小連携教員が入ることによって相互の情報共有ができ、成長を知らせたり小学校のよさも伝えられたりした。情報交換ができて協力体制が充実した。</p> <p>○タグラグビーで馬頭小と交流を行うことで中一ギャップ解消に役立った。小・小の連携も有意義だったと感じる。</p> <p>○情報部会が開かれなかったため、他校の取組が見えなかった。○○小はやっているのに○○小はやっていないという構図がないようにしたい。</p>	<p>・学期一回でもいいので情報共有の場を設けるよう努める。 (町教委との連携)</p>	
<p>Ⅲ 確かな学力の育成に努める</p>		<p>○学校課題研修の研究授業に向け、多くの職員が協働的に授業づくりに取り組んだ。授業研究会でも、よりよい指導に向けてさらに改善していけるポイントを共有することができた。</p> <p>○児童の様子や実態に応じた進め方について、すぐに情報共有や相談がしやすい。</p> <p>○先生方が多くの学年に入り個別指導をしているので、学習指導だけでなく児童指導においても協力して行っている。情報共有もできている。</p> <p>○様々な教科の授業で、支援が必要な児童へのサポート体制がとられていた。</p> <p>○教諭が少人数なのにもかかわらず、支援が必要な児童へのサポート体制がなされていて熱量を感じる。</p> <p>○児童の実態によっては、ドリル等の量を調整するなど、個に応じた柔軟な対応が必要である。</p> <p>○少人数できめ細やかに見られる分、分からないときにそのままにして支援に来てもらえるのを待っている児童が少なからずいる。児童が自分から支援要請ができるように育てる指導を考えていく。</p>	<p>・実態に応じて柔軟に量を調整する。</p> <p>・ドリルの精選をする。共通して購入するドリルについては、下位層に合わせる。</p> <p>・「分からない。」を言いやすい雰囲気作りに努める。</p> <p>・困難な課題についてもあきらめずに頑張ろうとする意識を育てる。</p>	
<p>② 基礎的基本的な内容の定着を図る家庭学習の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携した家庭学習習慣の育成 ・家庭学習強調週間（学力アップ週間）の活性化（家庭との連携強化） 	<p>B</p>	<p>○2学期の家庭学習強調習慣では、家の人とのスキンシップをお願いしたが、保護者アンケートによると、スキンシップをとると（子どもが）うれしそうにしていたと回答した保護者が過半数だった。自己肯定感を高めるために有効な気がするので、3学期も継続してみようと思う。</p> <p>○学習指導担当が準備よくやってくれているので、それに従ってスムーズに学力アップ週間に取り組んでいる。</p> <p>○学力アップ週間については、学習指導主任の先生を中心に充実した取組がされている。</p> <p>○家庭学習強調週間の取組がさらに充実するような手立てが講じられていて、一定の成果はあったと思う。</p> <p>○学力アップ週間で保護者へうまく伝わらない部分もあったので、協力をさらに呼びかける。</p> <p>○各家庭に応じた呼びかけが足りていなかったと感じる。</p> <p>○強調週間の成果がある一方で、普段の家庭学習にはまだ課題の残る児童がいる。そこは伸び代とし、根気強く働きかけていけばよいと思う。</p>	<p>・家庭学習のやり方を家の人も確認する。</p> <p>・授業の中で、音読する場面を設け、成長した様子を褒める。家庭学習の音読を発達段階に応じて工夫する。(動画を撮るなど)</p> <p>・各家庭の実態に応じた呼びかけ、子どもへの支援を行う。</p> <p>・スキンシップの取組は初めてだったこともあるので、継続して行うことで保護者の理解を深めていく。</p> <p>・個人懇談で家庭学習の課題について保護者と共有できたので、子どもたちへの指導と支援を継続しながら、その進捗状況について家庭との情報交換を密にしていこうにする。</p> <p>・家庭学習の内容を個に応じたものにする、自分で内容を選択できるようにするなど、少しでも意欲を持てるよう工夫する。</p>	<p>・学力を上げるための一つとして、子どものがんばりを家族と認め合うコミュニケーションも大切である。</p> <p>・宿題をやったか確認しづらい時、「漢字練習するか」と一緒にやるように声をかけるといい。</p> <p>・学習などやるべきことが終われば、自由な時間になるという習慣を身に付けるとよい。</p> <p>・上の学年になると、タブレットの連絡帳を自分で見て、宿題をやっているのか、保護者が確認しなくなる場合も増えてきている。</p>
<p>Ⅳ 豊かな心の醸成に努める</p>		<p>○道徳の授業を毎時間確実に実施できている。子どもたちが考え、発言する場面をできるだけ多くなるようにしているところもよいと思う。</p> <p>○複式学級同時に道徳の授業が実施できたのはよかった。</p> <p>○2つの学年の教科書を使うので、対象となる2学年の教科書が用意できるとよい。</p>	<p>・年度末に必要となりうる学年の教科書寄付の依頼をする。</p>	
<p>① 「道徳科」を要にした道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間の充実（授業公開と時間の確保） ・多面的・多角的に考える道徳科の授業の展開 	<p>A</p>			

<p>② 異学年交流・縦割り班活動での自尊感情の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 異学年交流、縦割り班活動の推進 あいさつ・返事・ありがとう（AHA運動）の推進 	<p>B</p>	<p>○集会などの行事もたくさんあるので難しいかと思うが、なかよし班遊びは喜んでやっていたので、もう少し回数があるといいなと思う。</p> <p>○清掃の時間に、上の学年の児童が下級生のことをよく見て、サポートしている姿がいつも見られる。</p> <p>○リーダーを任されている6年生の成長が見られる。</p> <p>○AHA運動を通してずいぶん声が出るようになってきた。6年生がよくがんばっている。</p> <p>○AHA運動期間中はあいさつに対する恥ずかしさを感じずにあいさつできる児童が多く感じる。</p> <p>○あいさつにまた課題のある児童もいるが、全体として見ると、よい方向に進んでいると感じる。子どもたちのあいさつがよくなっていくよう、担任はもちろん、職員室組の職員も日常的に働きかけをしている。</p> <p>○「AHA運動期間中だから」という意識があるように感じる。まだ「あいさつをする習慣」が生活の中になじむようにしていく。</p> <p>○あいさつと返事の様子には課題があると感じる。とてもよくがんばっている児童とそうでない児童がいる。児童それぞれの実態に合わせて課題があるので、スモールステップでできるようにしていく必要がある。</p>	<p>・声を出す場面と出してはいけない場面のメリハリを指導する。</p> <p>・あいさつ運動週間の際にしていたように、子どもから子どもへシールを渡すなど、児童同士の認め合う場を設定する。</p> <p>・AHA運動の頻度を増やす。現在、各学期2班合同で行っているが、学期2回行ったり、学級対抗にしたりして、工夫する。</p> <p>・自分のあいさつや返事の様子を客観的に見られる場を作り、個々が自分のあいさつの課題を捉え、めあてを立てられるようにする。(ビデオや写真)</p>	<p>・知らない人に対して、声が小さくなることもある。元気なあいさつが自然にできるようにしたい。</p> <p>・人と出会う機会の減少=あいさつする機会も少なくなっている。</p> <p>・下の学年より上の学年の方が恥ずかしさや声の小ささが感じられる。→6年生は自覚が出て、しっかりできる。</p> <p>・家ででのあいさつのように、学校のあいさつなども、その感覚でできるとよい。</p> <p>・あいさつは基本である。家庭と協力しながら、人と人とのコミュニケーションがとれるようにしていきたい。</p>
<p>V 健やかな体の育成に努める</p>		<p>○がんばりカードのおかみで意欲的にマラソンや縄跳びにチャレンジしようとしている姿が見られた。</p> <p>○楽しくなるような活動の提案をしてくれている。</p> <p>○業間の体力づくりに子どもたちが前向きに取り組んでいる。運動することを楽しみながら体力向上につながるような雰囲気がよい。</p> <p>○B日課への変更等でなかなか体力づくりの時間がとれない時があった。</p> <p>○外遊び奨励と読書の奨励、両立が難しい時期がある。</p> <p>○遊ぶ内容や児童が限定されてしまっているように感じるので、遊びの幅をもたせたい。</p>	<p>・今までどおり、できる範囲で行っていく。火曜日にできないからと他の曜日に代替えしてしまうとそれこそ混乱してしまいそう。</p> <p>・児童会や委員会全員が遊ぶ機会、遊びを教える機会を作り、外遊びの楽しさを伝播させていく。</p> <p>・「体力づくり週間」を実施できるように検討する。少しずつでも継続してやった方が効果を期待できる</p> <p>・室内で体力づくりを行う際は、姿勢の改善・柔軟性を目指した運動をさせる。</p> <p>・運動委員会で外遊びの種類ややり方などを放送や掲示物で説明する。◎（動画などで紹介も）</p>	<p>・冬休みの家庭での体力づくりは、進んで取り組みなかった。</p> <p>・一緒に遊ぶにも、親は体が追いつかない。しかしコミュニケーションを取ることはできる。</p> <p>・学校での運動の機会は大切である。いろいろなスポーツを体験させたい。</p> <p>・登下校で歩かないのも影響していることが考えられる。</p> <p>・ドッジボールができない子が増えている。ボール遊びから少し離れつつある。遊びの中でボールを投げるものが減っている。</p> <p>・家の人とする体力づくりも検討していく必要がある。</p> <p>・家で運動しない子どもが増えているので、学校での運動、体育は重要である。バドミントンなど少数でできる運動を勧めていきたい。</p>
<p>② 健康教育の充実と安全指導の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症の予防・対策 正しい姿勢の推進 う歯罹患率の減少 	<p>B</p>	<p>○手洗い・うがいは各学級の呼びかけと業間の手洗いソングが効果的で、児童に浸透していたように感じる。</p> <p>○集会などで「姿勢」の呼びかけを行うようになり、浸透している。</p> <p>○姿勢については指導が必要である。個人差があるが、学級ごとに正しい姿勢を意識させることが大切である。</p> <p>○体幹が悪く正しい姿勢が保持できない。「姿勢」の合図で正そうとする意識は概ねある。</p> <p>○お茶うがいが一瞬で終わってしまったように感じるので、継続的な指導が必要である。そして、水筒の中身もすぐになくなってしまうことも検討が必要である。</p>	<p>・保健関係の掲示物（月目標）を作成し児童が意識できるような環境を整える。</p> <p>・根気強く繰り返し指導していく必要がある。</p> <p>・「姿勢を正しくして食べる」ことへの意識が足りなかったので、保健・給食関係からも児童会を巻き込んで、情報を提供できるようになるとよい。</p> <p>・学活等で、クラスの現状を考えさせる指導をする。</p> <p>・骨ピーン体操を徹底する。正しいやり方をもう一度確認する。</p> <p>・動画の初めに呼びかけを入れたり、時中にポイントを児童に説明したりする動画を作成する。</p> <p>・お茶うがいについて、検討していく。</p> <p>・大きい水筒を持ってくるよう声かけや連絡をする。</p> <p>・正しい方法や意識してほしい点をしっかり指導していく。</p> <p>・発達段階を考慮しつつ、気付いた時に気付いた人が指導していく。</p>	<p>・家では学習机ではなく、こたつやテーブルで宿題をしている。姿勢について指導する機会は少ない。学校で机に座っている時に意識させていく。</p> <p>・家庭でも協力してもらうことを呼びかけていく。</p>

		○中学年や低学年において、咳やくしゃみの仕方、手洗いやうがいへの意識、マスク着用など、感染症予防上好ましくない状況がやや見られたので、指導していきたい。	・歯科受診についてのアンケートを実施する。 ・「歯みがき大会」を実施するなど、来年は考えたい。	・歯科受診率は個別対応を引き続き行う。
特色ある学校づくりへの取組（総合的な学習の時間と結び付け、地域の特色を生かす取組） ・年度初めのうちに総合の見通しをしておくことが大切だと思う。（学年によって前半、後半の重要性が変わってくる）声を掛け合う、計画を確認し合う、なども重要である。 →職員室に計画を掲示し、ボランティアや見学先との連絡調整の時期を共通理解できるようにする。 ・学校運営協議会に担任が参加し、協議できたことがよかった。担任としては、地域の方がどのように学校運営に関わってくれているかを知る機会になり、地域の方としては、担任の考えを交えながら熟議したことで、意見が広がったのではないかと思う。				
働き方改革に向けた業務改善策 ・担当の先生だけが行事の準備等で負担にならないように、職員で声を掛け合う。また、そうならないような工夫した方法が必要である。				